



「県立図書館でレファレンス」

愛媛県立図書館長 藤田 克昌

県立図書館は松山市堀之内にあり、「県民の知の拠点」として、図書資料の収集・保存・提供を行っています。図書館と言えば本の閲覧・貸出というイメージがありますが、県立図書館は「調査研究」や「学習」のための図書も多くそろえており、レファレンス（調査・相談）にも重点を置いて取り組んでいます。今回はそのレファレンスサービスを中心にご紹介したいと思います。

1 子ども読書室・子ども読書支援センター(1階)

1階は子ども読書室です。約7万冊の児童図書を所蔵しています。一般的な読みもののほか、歴史・文化・科学の図書など多様な資料がそろっています。子ども読書室のカウンターには「こんなあらすじの本だけどその本の題名は?」「どうすればいい俳句



ができるの?」など、日頃から様々な質問が寄せられています。8月に3回程度実施する夏休みの自由研究相談会では、県下各地

から多くの熱心な子どもたちが参加し、「海水から真水をつくるには?」「この虫の名前は?」など、いろいろな質問があります。

また、学校と連携して、本年度、新しく「授業DEブックトーク」を実施しています。授業の内容に関連する本を紹介することで、子どもたちが理解を深め、興味関心を高めて、より良い学びや読書につなげるための取組です。学習のための図書館や資料の利用方法を学ぶ、高校生対象の講座「図書館のミカタ」もあります。

2 一般図書室・各種情報支援コーナー(3階)

3階には、一般図書、情報支援コーナー、新聞・雑誌があり、利用者の非常に多いフロアです。レファレンスカウンターにも多様な問い合わせがあります。「江戸時代のツルに関する史料はないか」「フウランの栽培方法について」「昭和45年以前の児童書のベストセラーについて」など内容はさまざままで、司書が一つ一つ年鑑や、報告書、事典、関連書籍を調べて回答をしています。「関あじ・関さ

はかまかレファレンス作業を行っていただくか知りたい」というレファレンスには、ブランド化を経営組織とブランドマーケティングから論じている資料や、インターネット上の記事を紹介しました。

調べものには、各種情報支援コーナーも役に立ちます。ビジネス、医療健康、子育てのコーナーもご活用ください。

3 えひめ資料室・伊予俳諧文庫(4階)

「愛媛のことなら何でも分かる」を目指して取り組んでいます。歴史や地理・文化を知る上で重要な資料や、愛媛県出身者の著作、愛媛について書かれた資料等を網羅的に収集・保管・提供しています。昨年度デジタル化を行った行政資料733点の館内閲覧サービスも始めています。

レファレンスサービスを利用する利用者が特に多いフロアで、県外からの来館者や、時間をかけて調査研究をする利用者が多いのが特徴です。畝順帳、古い新聞（マイクロフィルム）、住宅地図などの利用が多くなっています。

レファレンスの例としては「当館所蔵の『めさまし草』に高浜虚子の次の句が掲載されているか。また用字・仮名遣いは



どうなっているか」「俳句甲子園から有名になった俳人を教えてほしい」「愛媛の方言や人形浄瑠璃について記載されている資料を紹介してほしい」など多くの質問が県内外より寄せられています。

レファレンス事例の主なもの国立国会図書館レファレンス協同データベースに登録しております（当館全体で600件以上）。国立国会図書館のHPで調べられますのでご活用ください。

このように、県立図書館のレファレンスサービスは多くの方に様々な形で利用されています。皆様の調査研究に役立つよう、今後ともこのサービスの充実に取り組んで参りたいと思います。

ぜひ一度、ご利用ください。

愛媛県行政資料(藩政期・明治期)デジタル・アーカイブ事業

県立図書館所蔵の特別コレクション「愛媛県行政資料(藩政期・明治期)」は、昭和52年に愛媛県総務部より管理替となった、藩政期より明治45年にいたる4130点の愛媛県の行政文書です。

近年注目されている道後温泉の発展に尽くした道後湯之町町長の伊佐庭如矢が県職員時代、松山城取り壊しの際に公園として残すよう嘆願した文書が含まれる等、愛媛県の黎明期を記す貴重な資料です。

特別取扱資料として貸出やコピーを禁止として劣化防止に努めていますが、地域の歴史を知るうえで欠かすことのできない資料のため、非常に良く利用されています。

昨年度、公益財団法人図書館振興財団に助成いただき、県全体のもの、郡単位のもの、村単位のもの多様な県内絵図117点、当時の村ごとの様子がわかる県史・地史編纂、神社の由緒等がわかる神社・寺院の明細帳、漁法の挿し絵があり各村の漁場の様子などがわかる水産例規を含む冊子616冊の計733点の資料を電子化しました。

※ 電子化した資料の一覧はホームページを御覧ください。

<http://www.ehimetosyokan.jp/contents/siryo/tokukore/gyosei/gyosei.htm>

※ 助成事業の進捗状況をブログで御覧いただけます。

<http://josei003-13.hatenablog.com/>

今年度より県立図書館4階「えひめ資料室」にてパソコン2台で提供を始めました。2本の指で拡大、縮小、移動など自在に操作できる21インチのマルチタッチディスプレイでご利用いただけます。

これまで複数の机を合わせ、慎重に広げてようやく見られるといったような、閲覧が困難だった2メートルにわたる大型の絵図も、簡単な操作で容易に見ることができるようになりました。

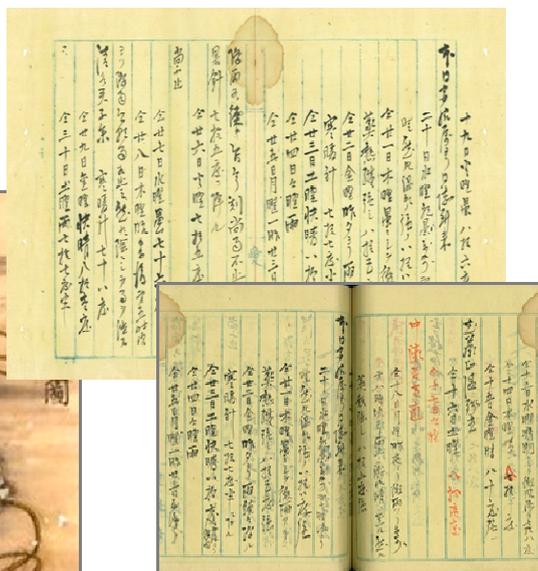
原寸を超える拡大をしても、鮮明な高画質で閲覧いただけます。

また、冊子資料の電子化は解体して行ったため、これまで綴じしろに隠れていた重要な情報(本文、見出し、日付等)が明らかとなりました。袋綴じのページはもとより、小さく折畳まれていた挟み込み図版等も広げた本来の状態で電子化しましたので、裏写りがなく、たいへん見やすくなっております。また、資料保存のためコピーをお断りして撮影のみとしましたが、閲覧中の画像はその場でプリントアウト(モノクロのみ、1枚10円)ができるため、これまで以上に郷土研究に役立てていただけることと思います。

なお、えひめ資料室閉鎖期間中(平成26年10月21日～12月15日)は3階一般図書室で御覧いただけます。

予約不要です。お気軽にお立ち寄りください。

(図書整理グループ 中村 由紀)



国立国会図書館デジタルコレクションのご利用について

県立図書館の3階一般図書室では、この春から、国立国会図書館デジタルコレクションの利用サービスを開始しています。国立国会図書館のデジタルコレクションは、利用申請して許可された図書館内で利用できるもので、「歴史的音源（れきおん）」については3月4日から、「デジタル化資料送信サービス」については4月1日からご利用いただけるようになりました。

歴史的音源とは

「歴史的音源」とは、1900年代初めから1950年頃に国内で製造されたSPレコードの音源をデジタル化したもので、その内容は、邦楽・民謡・落語・歌舞伎・クラシック・歌劇・歌謡曲・演説など多様なジャンルに及び、総数は約5万点です。歴史的・文化的に非常に貴重な音源を広く利用に供することを目的として、公立図書館等に配信されています。

デジタル化資料送信サービスとは

「デジタル化資料送信サービス」は、国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等のため入手が困難な資料（昭和43年までに受け入れた図書約50万点・明治期以降の貴重書約2万点・平成12年までに発行された雑誌（商業出版されていないもの）約67万点・博士論文約12万点など約131万点）について、そのデータを全国の図書館に送信することで、各図書館で閲覧することができるサービスです。

利用方法

いずれのサービスも、国立国会図書館のウェブページの、「国立国会図書館デジタルコレクション」のところで、資料検索することができます。資料によっては、一般にインターネット公開されているものもありますが、「歴史的音源」では館内限定提供の音源を含めた全ての音源を、「デジタル化資料送信サービス」では国立国会図書館内限定資料以外の図書館送信資料について、愛媛県立図書館内で利用できるようになりました。

国立国会図書館配信資料のご利用はカウンターにお申し出ください。3階一般図書室のインターネット端末をお使いいただきますので、「館内用インターネット端末利用申込書」をご提出ください。利用カードを作られていない方は、まず登録していただきます。（登録は、愛媛県内居住の方に限ります。）その際、運転免許証か保険証か学生証など身分証明書を拝見します。インターネット端末は、職員がサービスにログインして準備後、ご利用いただくことになります。「歴史的音源」のご利用では、ヘッドホンをお使いください。利用時

間は1回30分以内となっておりますが、次の利用者がいない場合のみ合計2時間まで利用可能です。インターネット端末は旅行中の方など県外にお住まいの方もご利用できますが、「デジタル化資料送信サービス」だけは、登録利用者の方にしかサービスが許可されておりませんのでご了解ください。



複写も可能です

「デジタル化資料送信サービス」の資料は、著作権法の範囲内で複写することもできます。「国立国会図書館借受資料等複写申込書」をご提出いただき、複写は、職員が別の端末から行うことになっています。白黒のみ1枚10円です。複写には少々時間がかかりますので、お時間に余裕をもってご来館ください。

「デジタル化資料送信サービス」では、国立国会図書館にある資料が愛媛県立図書館で利用できるということで、わざわざ国立国会図書館に出向くとか、愛媛県立図書館内で利用するために郵送してもらう手間がなくなりました。資料現物を手にするわけではありませんが、精度よく電子化されたデータで、閲覧にはあまり不自由を感じません。以前から気になっていた資料のある方は、この機会に愛媛県立図書館で閲覧されてはいかがでしょうか。

（相談グループ 柚山 紀子）

ご存じですか？子ども読書支援センター

県立図書館の1階に「子ども読書支援センター」があることをご存じですか？

「子ども読書支援センター」は、「子ども読書室」に併設されています。愛媛県の子どもの読書活動の推進を図る拠点として、子どもたちへのサービスはもとより、子どもの読書活動の推進に関わる人々や機関・団体等への支援を行っています。担当者は、読書振興グループの4名です。この4名で子ども室のカウンター業務も含め、数々の業務を行っています。



子どもたちに直接働き掛ける支援センターの事業の一つとして、専門家を招いた講演会を毎年、夏休み期間中に行っています。今年度のテーマは「俳句」。正岡子規は子どもたちにもよく知られた存在ですが、その子規が「過去四国一の俳人」と称賛したのは栗田樗堂。松山市にある樗堂ゆかりの庚申庵で、子どもたちに俳句を指導された経験をお持ちの矢野達郎先生と澤口明子先生を講師にお招きしました。



子どものための講演会

俳句の歴史や樗堂についてのお話を聞き、俳句作りのヒントを教えていただいてから、実際に俳句作りに挑戦。子どもたちだけでなく、親御さんも、そして私たち職員も、「五・七・五」と指を折りながらの句作です。はり出された子どもたちの作品のすばらしいこと。自分が出した句がちょっと恥ずかしくなりました。「言葉について学んでほしい」と企画したのですが、子どもたちから学んだのは私たちの方でした。

関係機関等への支援、連携・協力も行っています。その中で大きなものが、学校との連携です。「子どもと本の出会い推進事業」として行っている「ブックトーク」もその一つです。

ブックトークとは、あるテーマに沿って選んだ何冊

かの本を、つながりを持たせながら紹介し、子どもたちの「読んでみたいな」という興味・関心を引き起こすものです。

今年のブックトークのスタートは、6月、D小学校の6年生です。学校からは、「広島への修学旅行の後なので、平和に関する内容で」という要望がありました。読み物、絵本、日本のもの、海外のもの、いろいろなジャンルから、戦争や平和について取り上げた本を選びます。6年生にとって少し易しいもの、少し難しいものも入れます。男子も女子も興味を持てる内容になるようにも気を付けます。



ブックトーク「平和ってどんなこと？」

台本を作り、グループのメンバーの前でリハーサルをしていよいよ当日。大勢の子どもたちを前に緊張はしますが、あらすじを紹介したり読み聞かせをしたり、そして質問をして答えてもらったりしながらあっという間に時間が過ぎていきます。

1か月後、子どもたちからの感想が送られてきました。想像していた以上に、紹介した本を読んで、いろいろなことを深く考えてくれていることが分かりました。本の力はすごいものだと思います。「お仕事ががんばってください」「ブックトークを続けてください」という励ましの言葉もあって、もっともっと子どもたちに読書を広めようという意欲も湧きました。



支援センターの業務を通して子どもたちに出会うたびに、教えられたり励まされたりと、大きな力をもらっています。それを糧に、読書振興グループは今日も、子どもと本の出会いづくりに取り組んでいます。

子ども読書支援センターをぜひご利用ください。お待ちしております。

(読書振興グループ 田中 ひとみ)

「瀬戸内しまのわ 2014」

4館合同特別展村上海賊の世界—その風土と文化—

瀬戸内海は、古くから多くの船が行き交う交通の大動脈であり、戦国時代、芸予諸島の海域で活躍したのが村上海賊でした。この村上海賊を題材とした和田竜氏の歴史小説『村上海賊の娘』が、2014年本屋大賞を受賞しました。2004年に始まった本屋大賞は、全国の書店員の投票により受賞作を選ぶユニークな文学賞で、受賞を契機に海賊という存在に改めて注目が集まりつつあります。

9月27日に開幕した「村上海賊の世界」展は、「瀬戸内しまのわ2014」の一環として、博物館など県立の4館が合同企画した展覧会です。総合科学博物館、歴史文化博物館、図書館、及び美術館が収蔵する資料を、展覧会場の美術館に集めて、ジャンルを超えて村上海賊の世界を紹介します。

村上海賊の歴史を物語る歴史資料としては、肖像画があげられます。『村上海賊の娘』にも主人公の父親として登場する、能島城を本拠に、能島村上氏の最盛期を築いた村上武吉。その次男である「村上景親肖像」（複製）が伝わっています。景親は、兄元吉を支えながら、数多くの合戦で活躍するなど、能島村上氏の繁栄に貢献しました。

戦国時代、芸予諸島には、海賊衆の活動拠点となる海城がつくられました。「伊予国嶋々古城

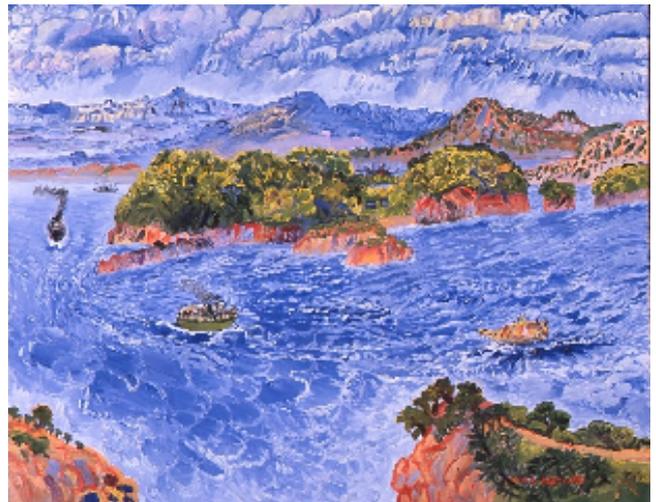


「村上景親像」（複製）愛媛県歴史文化博物館蔵
（原資料 今治市村上水軍博物館蔵）

之図」（岡田啓子氏蔵）からは、この地域で海城が濃密に展開していたことがうかがえます。海城の姿については、能島城の様子を対岸の宮窪も含めて復元した「能

島城模型」、香川元太郎氏が来島村上氏の拠点の甘崎城を描いた「伊予甘崎城図」により、詳しく知ることができます。これら海城の跡からは、瀬戸焼や備前焼のほか、中国製や朝鮮半島製の陶磁器などが多く発見されています。

また展覧会では、美術館の収蔵品から瀬戸内海を描いた美術作品を特集して展示しています。



来島水道仲渡島附近 野間仁根 愛媛県美術館蔵

野間仁根が描く来島水道は、野間が生まれ育った大島から見える風景です。画面には陽光きらめく空と海が広がり、鮮烈な色彩に満ちています。戦時中、野間は故郷の大島に疎開していましたが、そこで釣りとスケッチに明け暮れた日々が、昇華されて生み出された作品ともいえます。「風景を描くなら故郷を描け」という野間の言葉。瀬戸内海は野間にとって、常に立ち返るべき自然でありつづけました。

その他、図書館が収集した郷土図書から、江戸時代の水軍書をはじめ、村上水軍に関わる研究書、小説などを展示します。会期は10月19日まで。

<参考文献>

長井健「野間仁根の文人性について—昭和10~20年代の動向を中心に—」（『愛媛県美術館研究紀要』第5号、2006年）

『愛媛県美術館所蔵作品集』（2014年）

（愛媛県教育委員会生涯学習課 井上 淳）

愛媛県読書グループ連絡協議会 総会並びに読書推進大会が開催されました

平成26年5月30日（金）、松山市道後のにぎたつ会館にて、愛媛県読書グループ連絡協議会総会並びに読書推進大会が開催され、県下各地から読書グループ関係者、読書教育関係者、読書愛好者等154名が集まりました。

「愛媛県読書グループ連絡協議会」略して「県読連」とは、1964年12月に発足し、今年で創立51年を迎えた伝統ある団体です。

「伝えよう読書のよろこび、広げよう感動の輪」をスローガンとし、県内の読書グループ活動の相互理解と更なる普及・発展を目指して、日々実践を重ねています。



事例発表では、「四国中央読書会」の近藤宏枝様に、読書会発足までの過程や活動の様子をお話していただきました。「松山大学図書館」の田中輝和様には、昨年度松山大学で実施したビブリオバトルについて紹介していただきました。

今年は読書グループだけでなく、近年注目されているビブリオバトルについての発表もあり、研究協議では多数の方からの感想や意見を聞くことができました。年に1回、県内の読書グループの会員が集まって意見交換ができるのも、この大会の魅力の一つです。



また、午後からは大分県臼杵の百笑塾より後藤敦子様・広瀬芳子様・広瀬和代様をお招きして、「聞いちみち笑ろうちょくれ～子どもに伝える吉四六話し～」と題した口演（こうえん）を行っていただきました。昔から語り継がれている吉四六さんの民話を扮装や紙芝居など様々な方法で披露していただき、笑いの絶えない口演会となりました。

今後も県読連は魅力ある活動を目指し、続けてまいりますので、興味をお持ちの方は是非ご入会ください。問い合わせは愛媛県立図書館までお願いします。（読書振興グループ 中田 雅美）

愛媛県立図書館の利用案内

【開館時間】

火曜から金曜…午前9時40分から午後7時まで
土・日・祝日…午前9時40分から午後6時まで
子ども読書室…午前9時40分から午後5時まで

【休館日】

月曜日（祝日の場合は、直後の平日）
年未年始（12月29日～1月3日）
特別整理期間（10日以内で館長が定める日）
館内整理日（毎月末日、ただし、その日が上記休館日、土・日曜日に当たるときは館長が定める日）

【駐車場】

図書館専用の駐車場はありませんが、**県庁西駐車場**（旧国際交流センター跡地）をご利用いただけます。ただし、駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

【付近略図】



編集・発行 愛媛県立図書館

〒790-0007 松山市堀之内
TEL 089-941-1441（代表） FAX 089-941-1454
<http://www.ehimetosyokan.jp>
e-mail: tosyokan@pref.ehime.jp（代表）